

第74章 三峯神社参拝 妙法ヶ岳(三峯神社奥院)

10月7日(金)突然の姉からの誘いメールで三連休の中9日に三峯神社に行くことになる。パワースポットだからとわざわざその場に足を運んだことがない私。高尾山には子供のころからよく登っているが……。三峯神社、第六感的なもので何か体を感じるのかもしれない。少々風邪気味であったが、何とかなるだろうと。三峯神社は西武秩父駅から片道約40km、バスで約75分、標高1,101.5mの場所に祀られている。秩父側から雲取山に入山する登山口でもある。

10月9日(日) 起床5時30分

少々のが痛む。今回は登山ではないのでジーパンとスニーカーというラフな装い。天気は曇り。寒そうなので薄いジャケットを持ち6時30分に家を出発。武蔵小金井駅6時58分発の電車に乗り、三回電車を乗換え、西武秩父駅到着8時49分。姉とは西武秩父駅で待ち合わせ…と思ったが、バス停の方がにぎわっている様子。先にバス停に並ぶことにする。大きなザックを身につけた20人ぐらいの若い男女がすでに並んでいる。バスの増便がない限りバスに乗るのは厳しいだろうと思いながら列に加わろうとすると、学生さんたちの指導者らしき方が「私たちは同じグループなので、気にせずお先に並んでください。」とのこと。先頭の方に行くと、一般のお客さんが5人ぐらい並んでいた。姉が遅れて到着。「すごい人だね。」ぽつぽつ雨が降ってきた。

西武バスの方がバスの出発前に乗車人数の確認に来た。増便確定！ありがたい！！

9時10分

バスに乗り込む。2台にての出発となるが、それでも立乗り乗車の方がいる状態。しかも結構一般客が多い。皆三峯神社に参拝なのでだろうか。

<ポイント1>

三峯神社は今から1,900年ほど昔、日本武尊(ヤマトタケルノミコト)がわが国の平和をお祈りし国産みの神様をおまつりしたのが始まりである。尊を導いた山犬(オオカミ)がお使いの神。

三峯の名は神社の東方にそびえる雲取山、白岩山、妙法ヶ岳の三つの峯が美しく連なることから呼ばれる。

天平時代に国々に疫病が流行し聖武天皇が当社にも祈願され、「大明神」号を賜ったと伝えられる。平安時代には修験道の開祖役小角(えんのおづね)が修行し、山伏の修行道場となった。鎌倉時代の武将畠山重忠は当社を篤く崇敬し、社前の大杉は重忠が奉納したものである。山深い三峯山は時に盛衰があったが、戦国時代には行者道満(どうまん)が社頭の復興に尽くした。江戸時代には山主日光法印が各地に三峯信仰を(災難除)を広め社殿の造営を行い現在の基をきづいた。神社と仏様をおまつりしていた三峯山は明治の神仏判然令により神様だけをまつる神社となった。

三峯神社の神様はイザナギノ尊・イザナミノ尊で、日本の国や日本民族をお産みになられたと伝えられるご夫婦の神様である。お使いの山犬は不思議な力を持つと信じられ、大口真神(おおくちのまかみ)と呼ばれる。三峯様は火難除、盗難除をはじめさまざまな災いを防ぎ、良縁を結び願い事をかなえてくれる神様として信仰されている。(参考資料:三峯神社 社務所パンフレット)

10時30分 三峯神社バス停に到着

雨は上がっていたがガスが立ち込め、幻想的な景色を作り出している。山を左に見ながら、本殿を目指して歩くことになる。

三つ柱鳥居が正面に現れる。鳥居の前に狛犬(狼)の像が置かれている。本殿に向かう道中、狛犬の像がいくつか置かれている。けっこう体が引き締まった狛犬の姿が多く表情はそれぞれ異なっていた。狛犬の姿も楽しく拝見。

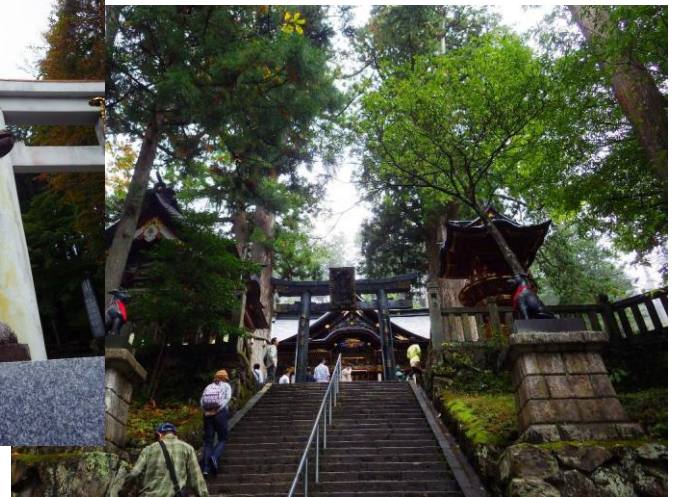
三つ柱鳥居をくぐると、少し空気がひんやりし始める。本殿までは10分ちょっとで到着。



(三つ柱鳥居)



(狛犬:狼)



(三峯神社拝殿に向かう階段)

階段を上ると正面に拝殿、左手に水屋、右手に八棟灯火籠が現れる。彫刻や配色が鮮やかで見入ってしまう。水屋で清めた後参拝へ。



(水屋の彫刻)



(大杉→)

<ポイント 2>

三峯神社拝殿:鮮やかな彫刻が素晴らしい拝殿。商売繁盛、心願成就、金運上昇など様々にご利益がある。

三峯神社拝殿横にある大杉:樹齢 800 年と言われるご神木。三度深呼吸してから木に触れ、お祈りすると、体に気が流れ込んでくる。

三峯神社拝殿の石畳:2012 年の辰年に突如として姿を現した赤い目の龍神様。水をかけると浮かび上がる。(参考資料:埼玉県秩父環境管理事務所チラシより)

その後三峯神社創設者の日本武尊銅像を見に行き、奥宮遥拝殿(おくみやようはいでん)へ足を運ぶ。奥宮遥拝殿は下界が一望できる場所とのことであるが、残念ながら雲海とガス、遠くまで眺めることはできなかった。ここから三峯神社奥宮を遥拝できるようだが、今日は奥宮はガスの中。当初奥宮まで行く予定ではなかったが、折角来たのだから行こうと姉に提案。姉も「行こう!」と即答する。

登山道で往復約 90 分かかるとのこと。行く前に腹ごしらえすることにする。「大島屋」という飲食店でお昼を撮っていると、窓の向こうに白岩山、雲取山、飛竜山が姿を現した。後で写真を撮ろうと思っていたが、残念ながらその後雲の中に隠れてしまいシャッターチャンスを逃す。



(奥宮参道入口から最初の鳥居)

13時10分 奥宮がある妙法ヶ岳に向かい出発
奥宮参道入口から舗装された道を歩いて数分、鳥居が現れる。霧が立ち込め異様な雰囲気を感じ出している。登山届のポストも設置されている。そして「熊出没注意」の表示もある。今回はクマ鈴を持参してないので、姉と大きな声で話しながら歩くことにする。一礼して鳥居をくぐる。鳥居をくぐると、山道となる。

しばらくすると「5m先の太いヒノキの根本にクロスズメバチの巣があります」と注意の標識が現れる。木からなるべく離れ、静かに通過する。二つ目の鳥居の少し手前で、雲取山へ向かうコースと別れる。いつかこのコースから雲取山を目指してみたいと思う。アップダウンが結構あり、東京奥多摩から目指すコースより大変らしい。

天気が悪いからか、奥宮を目指している人はあまりいない。静かな山道。ガスがまた神秘的である。なだらかな山道をひたすら歩く。ぬかるんでいる箇所もあり、気づくと私も姉もスニーカー、ズボンの裾が泥だらけになっている。これも「ご利益」と調子の良いことを言いながら先に進む。

奥宮に向かう途中から、私のくしゃみがとまらなくなる。花粉症が始まったかのような症状である。途中から鼻水も止まらず、ポケットティッシュを握り、鼻水をかみながら奥宮を目指すことになる。姉も「大丈夫??何かのアレルギーかしらね～」と自分が持っていたティッシュを譲ってくれる。ありがたい。しかし苦しい…。

三つ目の鳥居到着

屋根付きの休憩所が設置されていた。一礼して先に進む。ここから奥宮まで600mと標識あり。

四つ目の鳥居、一礼。

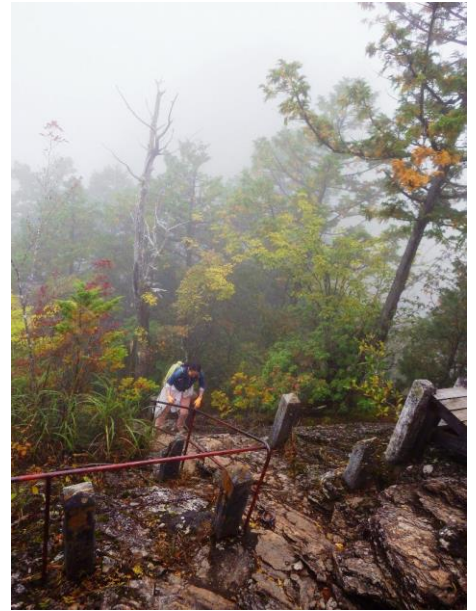
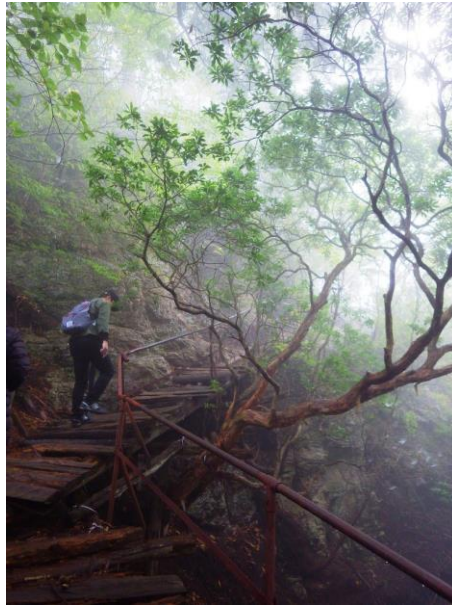
ここから少しずつ急な登りや大きな岩を通過する道となる。

「階段、クサリ場は足元に注意しよう」の看板が設置されている。

最後はかなり急こう配な階段を登ることになるので、普段山道を歩かない人は少々きつく感じられる道の可能性あり。

ただ鎖と手すりが設置されているので手の力もしっかり使えば問題なく登れるであろう。登りつめるとそこが山頂となる。





(四つ目の鳥居を通過後)

14 時 05 分 妙法ヶ岳、標高 1,329m 到着

石で造られた奥宮が奉られている。列に並び参拝。開けた山頂で、晴れていれば展望は素晴らしいのであろう。山頂はあまり広くないので、後から来る方のことも考慮し早々に下山することにする。

下りも慎重に。ガスは一向に晴れる気配なし。

14 時 40 分 登山届が設置された鳥居に到着

お邪魔しましたと一礼し、無事下山。

奥宮で清めた心身？で再び拝殿に向かい、夫へのお土産に御守り購入。

<ポイント 3>

普段は赤、青、緑、ピンクの 4 種類の「氣の御守」が売られているが、1 日のみ「白い氣の御守」が販売される。

この限定の御守、有名なスポーツ選手が持っていることで有名になっらしく、その後様々な有名人が求めにくるほどになった。白いお守りは大人気のため、整理券が一人一枚配布される。一人一つしか購入できないのでご注意。混雑時は、朝の 5 時には行列ができていたこともあるとのこと。

その後「御飯屋神社」、「縁結びの木」へ参拝し三峯山博物館により立ち寄り。

三峯山博物館は学術的に貴重な二ホンオオカミの毛皮 2 点を収蔵する博物館として注目されている。

入館料大人 300 円。貴重な資料なのでお時間ある方は入館をお勧め。



(奥宮 妙法ヶ岳山頂)

たっぷり三峯神社を堪能。

帰りは 15 時 35 分三峯神社発のバスに乗車。

くしゃみと鼻水に最後まで苦しまされ三峯神社を後にする。

三峯神社の強い気に体が負けてしまったのであろうか？

今度は、体調調整してから参拝しに来ることにしよう。

三峯の神様、お邪魔しました。

(文責:松田留美 同行者:姉)